健康福祉・病院経営委員会
平成 25 年 9 月 19 日
健　康　福　祉　局

# 子宮頸がん予防ワクチンについて

## 1　定期予防接種における積極的勧奨差し控えの経緯

○　「子宮頸がん予防ワクチン」については、平成 25 年 4 月 1 日から、「ヒブワクチン」、「小児用肺炎球菌ワクチン」とともに、予防接種法に基づく定期予防接種に位置づけられたところです。

○　平成 25 年 6 月 14 日開催の国の「厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会」において、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が子宮頸がん予防ワクチンの接種後に特異的に見られたことから、同副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない。」とされました。

○　これを受け、国は、同日付で各都道府県あて次のとおり勧告し、現在、全国の市町村で、子宮頸がん予防ワクチンの定期接種に係る積極的勧奨が差し控えられています。

**（平成 25 年 6 月 14 日　厚生労働省健康局長通知　～抜粋～）**

1　子宮頸がん予防ワクチンの定期接種の対象者又はその保護者に対し、市町村が接種を勧奨するにあたっては、積極的な勧奨とならないよう留意すること。

2　子宮頸がん予防ワクチンの定期接種を中止するものではないため、市町村長は、希望者が定期接種を受けることができるよう、対象者への周知と接種機会の確保を図ること。

3　子宮頸がん予防ワクチンの定期接種の対象者が、接種のために医療機関を受診した場合には、積極的な勧奨を行っていないことを伝えるとともに、ワクチンの有効性及び安全性について十分に説明した上で接種すること。　等

## 2　これまでの本市の主な対応について

**（１）　市民周知　（平成 25 年 6 月 15 日）**

市ホームページ（市政トピックス）に、子宮頸がん予防ワクチンについて、現在、積極的な勧奨を行っていない旨掲載。

**（２）　医療機関あて通知　（平成 25 年 6 月 17 日）**

・接種希望者に対し、積極的な勧奨を行っていないことを伝えるとともに、国の説明資料（別添）に基づき、ワクチンの有効性と安全性について説明すること。

・予防接種による副反応について、適切に報告すること。

**（３）　個別通知（接種勧奨）の見合わせ**

標準接種年齢の中学校１年生女子の保護者に対する個別通知の送付を見合わせ。

**（４）　相談対応**

ア　一般的な相談　約 30 件

・積極的勧奨の差し控えとはどういうことか、接種すべきかどうか。

・途中の回数まで接種しているが、今後の接種方法はどうすれば良いか。

イ　接種後の症状に関する相談（平成 25 年 6 月 14 日以降）　７件

うち持続的な疼痛を伴う症状　４件

⇒ 神奈川県を通じて厚生労働省に報告済み

**（裏面あり）**

## ３　今後の対応について

### （１）　国の動向

・持続的な疼痛とワクチンとの因果関係について、情報収集・分析を進めています。

・「厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会」において、早急に調査すべきとされた副反応症例について、可能な限り調査を実施した時点で、速やかに専門家による評価を行い、積極的な勧奨の是非を改めて判断する予定です。

### （２）　本市の対応

・国の専門家会議による議論を注視しつつ、引き続き、ワクチンの有効性とリスクについて、市民に情報提供を行うとともに、保護者からの相談等に対応します。

## 【参考】

### １　子宮頸がん予防ワクチンの概要

| | |
|---|---|
| 対象疾病 | ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症 |
| 定期接種対象年齢 | 小学校６年生～高校１年生相当の女子 |
| 標準の接種年齢 | 中学校１年生の女子 |
| 接種回数 | ３回 |
| 接種間隔（※） | サーバリックス：初回接種の１か月後と６か月後に追加接種<br>ガーダシル　　：初回接種の２か月後と６か月後に追加接種 |
| 接種方法 | 筋肉注射 |

※　ワクチンのメーカーにより異なります。

商品名：サーバリックス（製造販売：グラクソ・スミスクライン株式会社、販売開始：平成 21 年 12 月）

商品名：ガーダシル（製造販売：ＭＳＤ株式会社、販売開始：平成 23 年 8 月）

### ２　本市における子宮頸がん予防ワクチンの導入経過

**（１）「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」（平成 23 年 2 月～平成 25 年 3 月）**

国の基金を活用し、公費（国 45％／市 55％）負担による任意接種として実施。

【対象】※平成 24 年度の本市における対象

中学校１年生～高校３年生相当の女子

【延べ接種件数】

２０４，５３８件

【接種率】

| | |
|---|---|
| 平成 23 年度 | 73.4% |
| 平成 24 年度 | 70.8% |

※中学１年生のうち１回目の接種を受けた人数の割合

**（２）予防接種法に基づく定期予防接種（平成 25 年 4 月～）**

【延べ接種件数】　（件）

| ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 938<br>(311) | 546<br>(149) | 409<br>(85) | 166<br>(23) | 2,059<br>(568) |

（　）は、1 回目の接種で内数

子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける皆さまへ　（平成25年6月版）

# 現在、子宮頸（けい）がん予防ワクチンの接種を積極的にはお勧めしていません。接種に当たっては、**有効性**と**リスク**を理解した上で受けてください。

子宮頸がん予防ワクチンの有効性とリスクについて、お知らせします。
ワクチンの接種は、その有効性と接種による副作用（専門的には「副反応」といいます）が起こるリスクを十分に理解した上で受けるようにしてください。

## 子宮頸がんは、こんな病気

### 子宮頸がんは、乳がんに次いで、若い女性に２番目に多いがんです

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口部分（子宮頸部）にできる「がん」です。
若い女性（20～39歳）がかかる「がん」の中では乳がんに次いで多く、女性の100人に1人が生涯のいずれかの時点で、子宮頸がんにかかると言われています。年間9,000人近くの人が子宮頸がんにかかり、2,700人もの人が亡くなっています。

### 子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因で起こるがんです

ヒトパピローマウイルス（HPV）には、100種類以上のタイプ（型）があり、そのうち、子宮頸がんの発生に関わるタイプは「高リスク型HPV」とよばれています。主に性行為によって感染します。海外では、性活動を行う女性の50%以上が、生涯に一度は感染するといわれ、感染しても多くは自然に排出されます。

### 子宮頸がんの約半分は、ワクチン接種によって予防できることが期待されています

ワクチンには、ヒトパピローマウイルス（HPV）の成分が含まれているため、接種することで免疫を作ることができ、HPVの感染を防ぐことができます。
子宮頸がん予防ワクチンの接種は法律に基づいて実施されていますが、受けるかどうかは、接種することで得られるメリットとリスクを理解した上で、ご判断ください。

## 子宮頸がん予防ワクチンの効果

### 子宮頸がん予防ワクチンは世界保健機関（WHO）が接種を推奨し、多くの先進国では公的接種とされています

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がん全体の50～70%の原因とされる２種類（16型・18型）のヒトパピローマウイルス（HPV）に予防効果があります。
16型HPVと18型HPVの感染やがんになる過程の異常（異形成）を90%以上予防できたとの報告があり、これに引き続いて起こる子宮頸がんの予防効果が期待されています。

- 子宮頸がんは数年～数十年にわたって、持続的にHPVに感染した後に起こるとされています。
- 子宮頸がん予防ワクチンは新しいワクチンのため、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません。

厚生労働省

## 子宮頸がん予防ワクチンの接種についてのリスク

### 比較的軽度の副反応は、一定の頻度で起こることが知られています

ワクチン接種後に見られる主な副反応としては、発熱や接種した部位の痛み・腫れ、注射の痛み・恐怖・興奮などをきっかけとした失神があります。

<ワクチンごとの主な副反応>

| 発生頻度 | ワクチン：サーバリックス | ワクチン：ガーダシル |
|---|---|---|
| 50%以上 | 注射部の痛み・発赤・腫れ、疲労感 | 注射部の痛み |
| 10～50%未満 | 痒み、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛　など | 注射部の腫れ、紅斑 |
| 1～10%未満 | じんま疹、めまい、発熱　など | 注射部の痒み・出血・不快感、頭痛、発熱 |
| 1%未満 | 注射部の知覚異常、しびれ感、全身の脱力 | 注射部の硬結、手足の痛み、筋肉のこわばり、腹痛・下痢 |
| 頻度不明 | 手足の痛み、失神、リンパ節の炎症　など | 疲労・倦怠感、失神、筋痛・関節痛、嘔吐　など |

＊平成25年6月時点の添付文書に基づく。

### まれに重い副反応もあります

副反応については、接種との因果関係を問わず、報告を集め、定期的に専門家が分析・評価しています。現在、因果関係は不明ながら、持続的な痛みを訴える重篤な副反応が報告されており、その発生頻度等について調査中です。なお、これまでに報告のあったその他の重い副反応については、以下のとおりです。

| 病気の名前 | 主な症状 | 報告頻度＊ |
|---|---|---|
| アナフィラキシー | 呼吸困難、じん麻疹などを症状とする重いアレルギー | 約96万接種に1回 |
| ギラン・バレー症候群 | 両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気 | 約430万接種に1回 |
| 急性散在性脳脊髄炎（ADEM） | 頭痛、嘔吐、意識の低下をなどを症状とする脳などの神経の病気 | 約430万接種に1回 |

＊上記は平成25年3月末時点で専門家による評価を経た数値です。

※これらの報告には、ワクチン接種と関係がないと思われる報告も含まれます。

## ワクチン接種後の注意

### ワクチン接種後に体調の変化があった場合には、すぐに医師に相談してください

注射針を刺した直後から、強い痛みやしびれなどが生じた場合は、すぐに申し出てください。また、ワクチン接種後に、注射による痛みなどをきっかけとして失神することもありますので、接種後30分程度は、イスに座るなどして様子を見るようにしてください。

予防接種当日は、激しい運動や入浴は避け、接種部位を清潔に保ち、体調管理をしっかり行ってください。

### 副反応により、医療機関での治療が必要になった場合には、お住まいの市区町村の予防接種担当課へご相談ください

副反応によって、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害が残るなどの健康被害が生じる場合には、法律に基づく救済が受けられます。

※救済を受けるには、健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかを、専門家からなる国の審議会で審議し、認定される必要があります。

### ワクチン接種をした方も20歳になったら子宮頸がん検診を受けることが大切です

子宮頸がん予防ワクチンは子宮頸がんの原因となる全てのヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）に予防効果がある訳ではありません。ワクチン接種をした方も、２０歳になったら必ず２年に１度の子宮頸がん検診を受けましょう。定期的に検診を受ければ、がんになる過程の異常（異形成）やごく早期のがんの段階で発見できることが多く、経過観察や負担の少ない治療で済むことも多いのです。

厚生労働省ホームページで、子宮頸がん予防ワクチンに関する情報をご案内しています。
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/